

# 課題整理



## 希望進路を実現した生徒の共通点は、「マイ・ストーリー」の形成

様々な制度変更があった2021年度大学入試では、どのような指導の下、こういった資質・能力を身につけた生徒が志望大学に合格したのか。21年度大学入試において合格実績を飛躍させた3校の教師、及び文部科学省「大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議」委員を務める大学教授が語り合った。

### 学びを「マイ・ストーリー」として語る生徒が高評価

**谷本** まず、2021年度大学入試を振り返り、どのような生徒が合格していたのか、大学としての実感をお話してください。

**西郡** 大学が求めているのは、基礎学力を備えていることは前提とした上で、高校での学びや活動を、

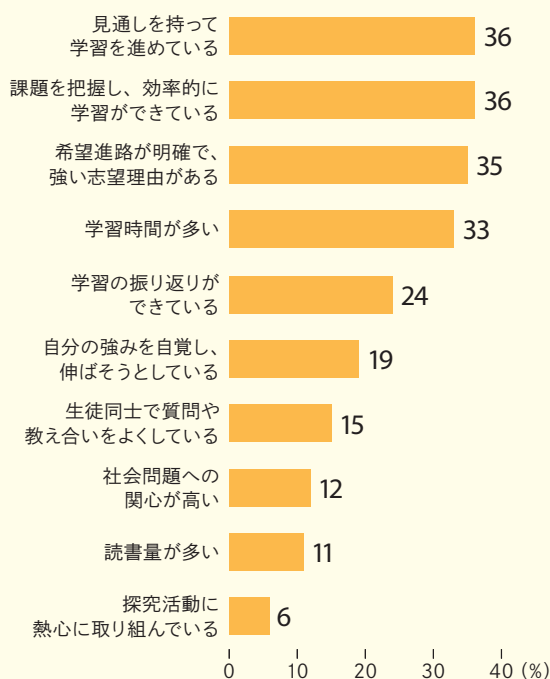
自分の成長のストーリーとして表現できる生徒です。志望理由書であれば、学びや活動の事実・結果をただ述べるのではなく、そうした事実、結果に至るまでの過程と今後の展望を自分の言葉で述べているものを、大学は評価します。また、面接や集団討論でしっかり

とした考えを語り、評価される生徒も、自身の成長のストーリーを持っていきます。なお、本学の7学部のうち5学部の一般選抜では、

任意提出の書類審査である「特色加点制度」を導入しています。同制度では、高校での学びや活動が、大学入学後の学びや活動にどのように生かせるかなどを記入する書類を合否判定に用います。

**中原** 本校でも、学校推薦型・総合型選抜で合格したのは、自分の課題意識と大学での学びを社会貢献を介してつなげ、自分のストーリーとして語ることができた生徒でした。ある大学に学校推薦型選抜で合格した生徒は、関心のあった道徳教育について1年次から研

図1 2021年度大学入学共通テストにおいて、  
想定よりも高得点だった生徒の特徴



※ベネッセ教育情報センター「教育・入試改革対応に関する調査」(2021年2～3月にウェブとファクスで実施)を基に編集部で作成。

究を続け、3年次の面接の練習では、「この大学のこの教授の下で道徳教育を学びたい」と楽しそうに語っていました。低学年次からの積み重ねがあったからこそ、そのように語れたのだと思います。

**谷本** ベネッセ教育情報センターでは、全国の先生方から、募集単位の入試の傾向や指導のポイントをお伺いし、「学校推薦型選抜・総合型選抜指導レポート」(※1)を作成しました。その中でも、「自分が取り組んできた活動が、地

域の課題とどのように関連するかを考え、その視点を志望理由書に明確に盛り込むよう、生徒に助言した。「合格した生徒の特徴は、志望理由にリアリティーがある」といった声が多く見られました。高校生活での様々な経験を未来へとつなげて「マイ・ストーリー」を描く力は、どのような指導によって育まれると思われませんか。

**菅原** 本校では、定期考査や文化祭といった高校生活の節目で必ず振り返りの機会を設けて、自分を

見つめさせ、次の行動に生かすことは何か、考えさせてきました。そうした振り返りを基に、時には生徒同士で学習法について相互評価させたり、「マイ・ストーリー」を描いている優れた記述を学年通信に掲載したりと、学びや活動での気づきを言葉にし、共有することを大事にしてきました。

**長岡** 生徒は、日々の学習や部活動などを通して、自分を見つめ直し、過去や未来の自分と今の自分とをつなげ、今後の学びや活動を方向づける軸を形成していきま

す。加えて、自治体や企業、大学と協働して行う探究学習も、そうした軸をつくる貴重な機会です。社会との接続を意識した活動を通して、自身のあり方・生き方を見つめ、志望を固めていく生徒は少なくありません。

**中原** 21年度大学入試では、一般選抜でペーパー・インタビューを課した大学もありましたが、「高校3年間のうち、チームで取り組んだことを1つ挙げて、そのチームでの自分の役割を説明しなさい」という設問の回答に苦勞した

と言ってきた生徒がいました。低学年次から、日常の教育活動の中で、自分は他者とうかがわったか、自分の役割は何だったか、どれだけ頑張れたかなどを振り返り、書かせる指導が必要だと考えています。

**西郡** 志望理由を過去の経験に結びつけて語れるようになるためには、普段から自分の行動を振り返り、その気づきを言語化する作業を繰り返すことが重要です。先生方は、まさにそうした指導をされているのだと感じました。

**長岡** 2年連続で3学年担任を務めています。現3年生は、昨年度の3年生よりもコロナ禍による自粛で経験できなかったことが多く、経験を基にした志望理由の掘り下げに難しさを感じています。

**西郡** コロナ禍が原因で生徒の学習の動機づけなどに苦心していることは、大学側も理解しています。その点に関して大学関係者の間でよく話題になるのは、先行き不透明な時代だからこそ、何を考えて、どう行動するかということに、真剣に向き合う生徒を評価し

\*1 「学校推薦型選抜・総合型選抜指導レポート」は、アンケートにご協力いただいた先生へ提供しております。2022年度入試の指導レポートの詳細は、ベネッセハイスクールオンラインでご案内しています。

ようということ。もちろん、大人でも答えが出せない難題ですが、自分なりに考えていることを、それまでの学びを踏まえて表現してほしいと思っています。

**中原** 本校では、生徒は学校オリジナルのスケジュール帳に毎日学習時間を記録し、それを基に学習や生活を振り返ります。そして、それを担任や副担任が毎日確認してコメントを返しますが、生徒は次第に、振り返りを基に次の学習について見通しを立てられるようになります。また、ある生徒は、



佐賀大学  
アドミッションセンター長・教授

**西郡 大** にしごおり・だい

2009年、東北大学大学院教育情報学部博士課程後期修了。専門は教育情報学。同年、佐賀大学アドミッションセンター准教授。17年より現職。文部科学省「大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議」委員。

受験前日に1年間の学習時間を計算して「16万7958分」と記入し、「これだけ頑張ったのだから大丈夫」と、自らを奮い立たせて受験に臨んでいました。過去の積み重ねが今の自分をつくっているということ、大学入試を通じて肯定的に自覚できたことは、今後の人生において大きな意味を持つと考えています。

**谷本** 21年度大学入学共通テストについて、全国の高校にアンケートを取ったところ、想定以上に高得点だった生徒は、「見通しを持って学習を進めている」「希望進路が明確で、強い志望理由がある」といった特徴がありました（P.7図1）。自分の過去の経験を裏づけにした強い志望を抱き、いつ、何をすればよいかといった見通しを持って学びに向かった生徒が力を発揮したという状況は、先生方のお話と共通しています。

生徒の「マイ・ストーリー」は  
人生を支える力を持つ

**長岡** 昨年、過去10年間の本校卒

業生の、マーク式の模擬試験から大学入学共通テストまでの点数の伸びを分析しました。すると、現在の学校推薦型・総合型選抜で進学した卒業生は、一般選抜で進学した卒業生よりも大学入学共通テストまでの点数の伸びが大きく、合格後も学びから離れず、点数を伸ばしていました。大学からは、学校推薦型・総合型選抜で進学した学生は一貫してGPA（\*2）

が高いといった話も聞きます。進路理由や社会貢献などについて十分に考え、それらを表現する機会を持ったことで、学びに向かう力を伸ばし続けることができたのかもしれません。

**西郡** 先ほどお話しした「特色加点点制度」で評価されて合格した生徒は、入学辞退率が低く、大学入学後のGPAも高いです。行動特性を見ても、自律性やリーダーシップが高い傾向があります。また、本学の教員に、「入学時にどういった資質・能力を持っているか」「目標から逆算して今やるべきことを考えたり、普段の生

活と自分の問題意識を関連づけたりすることができた力を持った学生」といった答えが返ってきました。まさに、自分の学びを振り返りながら「マイ・ストーリー」を描いていく力と言えます。

**谷本** 生徒が描いた「マイ・ストーリー」を、教師が描いた指導ストーリーと重ね合わせ、生徒の「マイ・ストーリー」をより豊かにするために、3年間でどのような指導が求められるのでしょうか。

**菅原** 私は、卒業までにどのような生徒を育てたいのかを明確にし、そこから逆算して時期ごとに求められる教科指導と進路指導を組み立て、流れを持った指導ストーリーを描いて指導してきました。そうした指導ストーリーは、最大公約数的に全生徒に適用できるものとして、生徒にも明確に示します。その上で、教師はそれぞれの「マイ・ストーリー」を描きながら自走する生徒に伴走することを重視し、生徒自身が様々な学びや活動を線で結び、意味づけできるよう、面談などを通じて支援しています。

\* 2 Grade Point Average の略。履修科目の評点に単位数を加味して算出する成績評価値。個々の学生の到達水準を測る目安に用いることができる。



**長岡** 従来の3年生の出願検討会では、学力面を検討材料の中心にして話し合っていました。が、昨年度より、探究学習のテーマを検討材料に加えました。「この生徒は、探究学習のテーマとの親和性や取り組みの様子を見ると、この大学の総合型選抜に向いているのではないか」といった助言をし合。うなど、生徒の進路に広がりを持たせられるようになりました。



岩手県立福岡高校

**長岡拓郎** ながおか・たくろう

教員歴10年。同校に赴任して3年目。教務課。3学年担任。

◎学校概要

設立 1901(明治34)年  
形態 全日制/普通科/共学  
生徒数 1学年約150人  
2021年度入試合格実績(現役のみ)  
国公立大は、北海道大、弘前大、岩手大、東北大、秋田大、宮城教育大、福島大などに61人が合格。私立大は、岩手医科大、青山学院大、中央大、明治大などに延べ62人が合格。

**中原** 生徒の「マイ・ストーリー」の形成には、保護者の協力も必要です。特に現在は、コロナ禍によって家庭の経済的事情が進学に影響するケースもあります。保護者に志望理由書を読んでもらうなどして、生徒がどのように考えて進路を決めようとしているのかを、十分に理解してもらおうとします。重要です。伝統校の強みは、大学合格



茨城県立水海道第一高校

**菅原冬樹** すがわら・ふゆき

教員歴25年。同校に赴任して5年目。進路指導主事。

◎学校概要

設立 1900(明治33)年  
形態 全日制/普通科/共学  
生徒数 1学年約280人  
2021年度入試合格実績(現役のみ)  
国公立大は、北海道大、茨城大、筑波大、埼玉大、千葉大、東京学芸大などに88人が合格。私立大は、青山学院大、慶應義塾大、明治大、立教大、早稲田大などに延べ610人が合格。

や教科学力向上に向けた指導ストーリーが確立されていることで。それに、時代の変化に応じた新たな視点を組み込むことで、これからの高校教育が形作られていくのではないのでしょうか。様々な改革が進む今こそ、自校が積み重ねてきた指導から、新しい教育につなげられるものを見いだすべきでしょう。生徒が描く「マイ・ストーリー」は、一人ひとりの18年



大分県立大分豊府中学校・高校

**中原久典** なかはら・ひさのり

教員歴22年。同校に赴任して18年目。進路領域主任。

◎学校概要

設立 1986(昭和61)年  
形態 全日制/普通科/共学  
生徒数 1学年約240人  
2021年度入試合格実績(現役のみ)  
国公立大は、東北大、筑波大、お茶の水女子大、一橋大、京都大、大阪大、神戸大、九州大、大分大などに196人が合格。私立大は、早稲田大、立命館大などに延べ207人が合格。

間のかけがえない物語です。人生の支えとなる「マイ・ストーリー」を、生徒とともに形作る指導や支援を大切にしていきます。

**西郡** 本日のお話を通して、高校の先生方の熱心な指導や支援によって、現在の高校生がしっかりと将来を念頭に置いて大学を目指していることを再認識することができました。ただ教えられるだけの自分から、自ら学びを創り出し、深める自分へと変わるには、多様な課題に取り組み、その中で失敗を経験することも大切でしょう。そうした経験も糧に、成長の軌跡を「マイ・ストーリー」として生き生きと語ることができる生徒を育てていただきたいです。

**谷本** これからの進路指導で求められる生徒支援の視点が明確に見えてきたように思います。本日はどうもありがとうございました。



ファシリテーター  
ベネッセ教育情報センター  
センター長  
**谷本祐一郎**  
たにもと・ゆういちろう